



# 飯田市の概要



長野県南部、3千メートル級の南アルプスと中央アルプスが東西に聳え、中央を天竜川が南下する伊那谷に位置する飯田市。

鎌倉期の文献では、共同作業で農業をする「**結い田**」と表記され、その名が今日に至る。

安土桃山期には、小京都と呼ばれる今日の城下町の街区の原型が形成され、今日に至る。

「結い」による協働性を大切に育みつつ、特色ある山の暮らし、里の暮らし、街の暮らしが営まれている。

古来より伝わる特色ある民俗文化が、今も生活の中に息づく街である。

○ 面積	658.66 km <sup>2</sup>
○ 人口	95,400 人 (2024.3.31)
○ 世帯数	40,257 世帯 (2024.3.31)
○ 標高	499.02 m (市役所)
○ 日照時間	2,166.5 時間 (2020年)
○ 森林率	全市域の84.4%

# 田舎暮らしの本「住みたい田舎ベストランキング」2024年版

◎人口5万人以上、10万人未満のまち

★若者世代・単身者部門 **第1位**

★子育て世代部門 **第1位**

★シニア世代部門 第6位

★総合部門 第4位

◎甲信エリアで「住みたい田舎」

★総合部門 **第1位**

★若者世代・単身者部門 第1位

★子育て世代部門 第1位

★シニア世代部門 第4位



↑自分の特技を仕事に結び付けたい女性をバックアップする「起業どうしようかなクラブ」。



↑市内の公立保育園の全園が信州やまほいく(信州型自然保育)認定園。まずは「ショート留学」で5泊6日~1カ月のお試しを。

## 飯田市の魅力

- 得意なことを仕事につなげたいと思っている女性向けに、セミナーや相談窓口を提供する「起業どうしようかなクラブ」を開催
- 空き家や竹林拡大などの地域課題解決に協力したい人を募集。若いリーダーも増えている
- 「結いターンシップ」と「ショート留学」の参加者に、宿泊費と交通費を一部補助

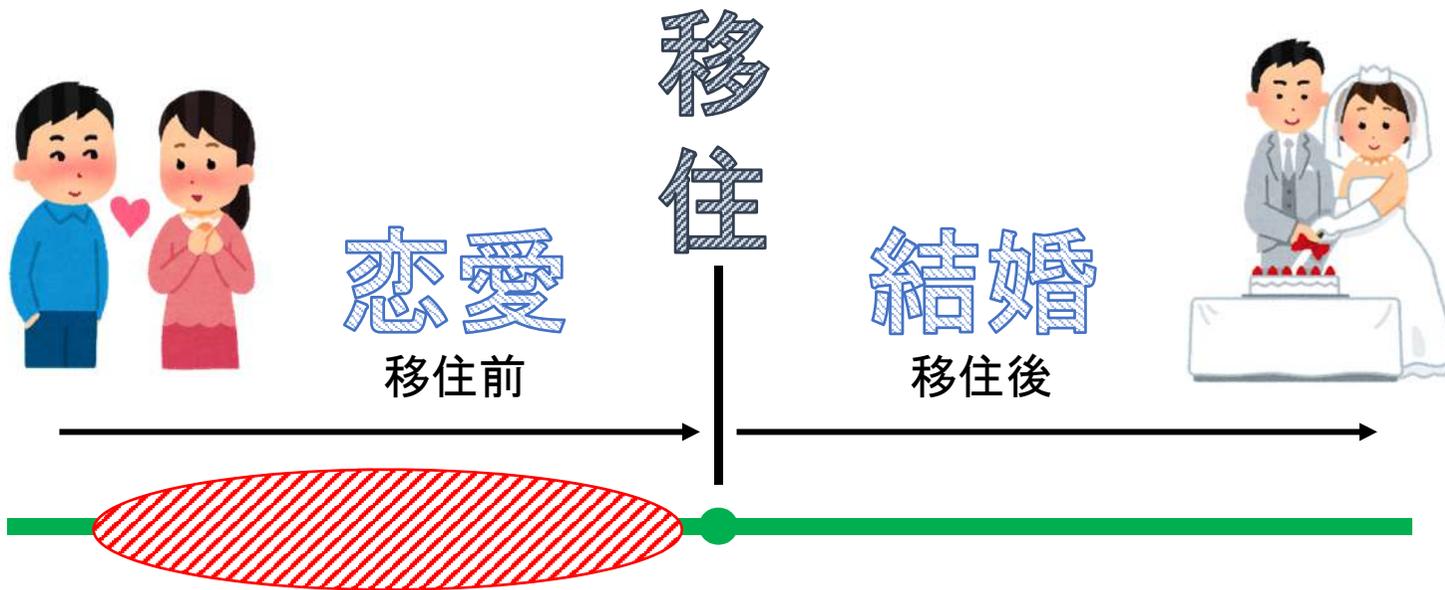
# 各種メディアでの評価



専門家厳選!いま移住したい町

1位	長野県 飯田市
2位	千葉県 勝浦市
3位	長野県 伊那市
番外編	ストックホルム
4位	長野県 軽井沢町
5位	福井県 坂井市
6位	静岡県 熱海市
7位	新潟県 三条市





お互いを知る

ありのままを認め合うこと

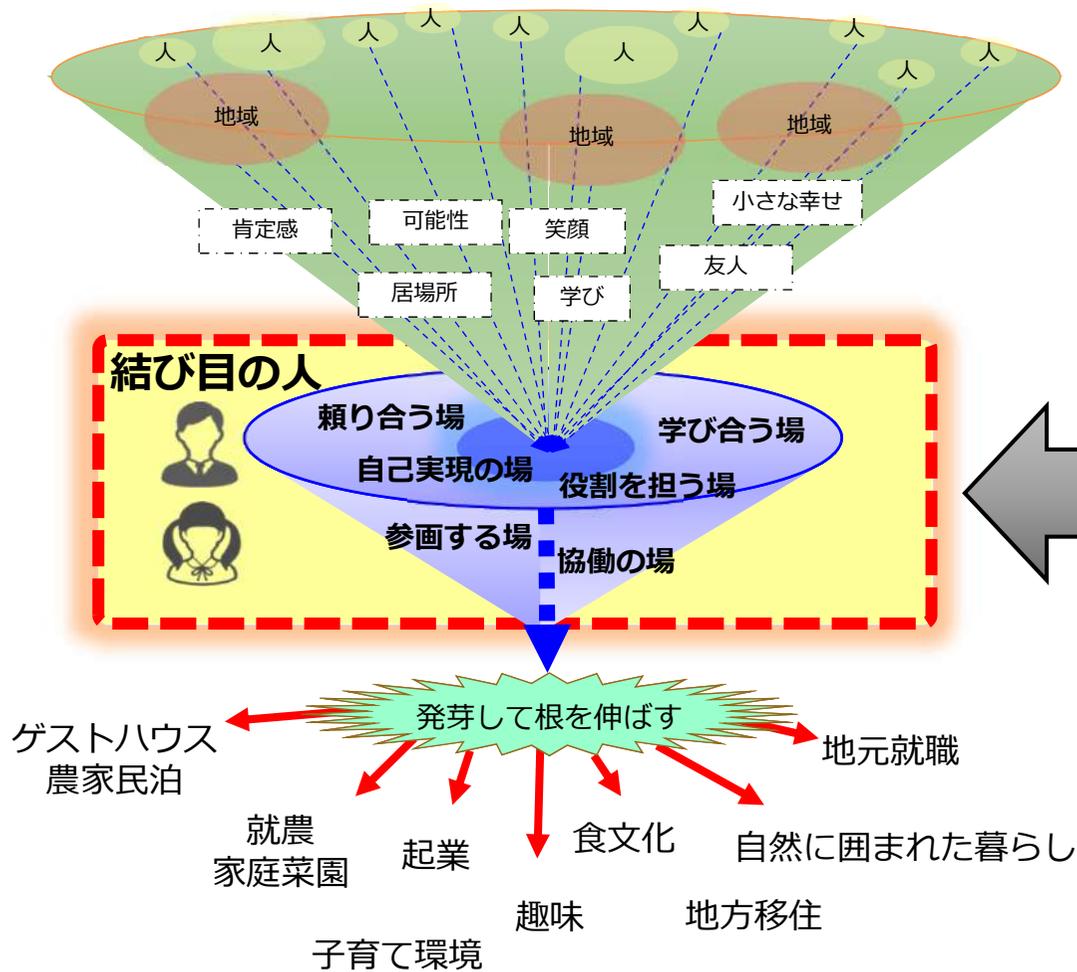
そこには、関わった分だけ  
自分なりに**大切にしたい価値**が  
生まれている

関心を寄せて、関与する人が  
**立場や役割を認め合って**  
目的を共有して、協働する

どうやって関係性が  
深まっていくのか？

- ・ **ビジョン、未来像**に共感する
- ・ 地域やブランドの **歴史、背景、文化**を知る
- ・ 作り手の **人柄、スピリッツ**を知る
- ・ 期待以上の **サプライズ**をされる
- ・ 忘れられない **原体験**に出会う
- ・ **帰属意識**をくすぐられる
- ・ 同じ価値観を持つ **仲間**に出会う
- ・ 自分の **意志で動き**、手ごたえの **実感**を得る
- ・ 自分の価値観や夢を **投影**する

# 関係性をつなぐ「結び目」の人



## 関係人口

「関心（心を寄せる）」

「関与（そこに係る）」

…地域や地域の人と多様に関わる



①肯定感と居場所

②当事者意識

③想像力と創造性

直接寄与型

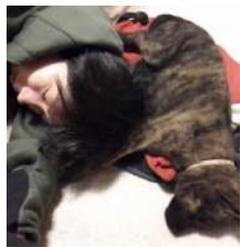
特定の地域に想いを寄せる地域外の人材との継続的かつ複層的なネットワークを形成することにより、このような人材と地域との関わりを深め、地域内外の連携によって自立的で継続的な地域づくりを実現する。

# 関係性をつなぐ 「移住コンシェルジュ」

結いターン移住定住推進課と連携して、移住相談や事業連携を進めるコンシェルジュ



**高橋 瑞季 氏**  
Yamairo guesthouse  
オーナー



**新海 健太郎 氏**  
株式会社週休いつか  
代表取締役



**渡邊 捷揮 氏**  
里町グラフ 代表  
グラフィックデザイナー



**林 城仁 氏**  
梓設計企画 代表



**水戸 幸恵 氏**  
遠山郷ゲストハウス  
太陽堂 オーナー



**小池 真沙美 氏**  
食と体験の宿まごころ  
／新島食堂 オーナー



**折山 尚美 氏**  
合同会社NOM  
代表社員



**杉山 豊 氏**  
Waratte house 代表  
長野県地域おこし協力隊



**長谷川 一矢 氏**  
長谷川農園  
パブリカ農家



**中島 綾平 氏**  
一棟貸し古民家宿  
『燕と土と』 オーナー

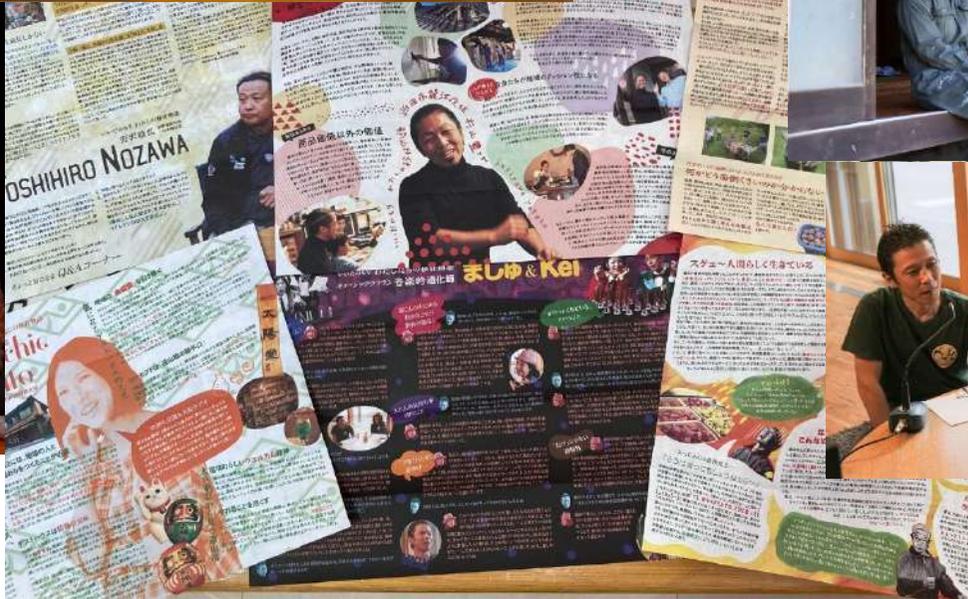


**殿倉 由起子 氏**  
株式会社太陽農場  
代表取締役



**佐藤 文紀 氏**  
株式会社実りや  
代表取締役

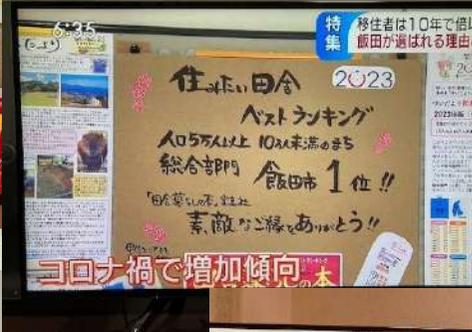
# 関係性をつなぐ 「先輩移住者」

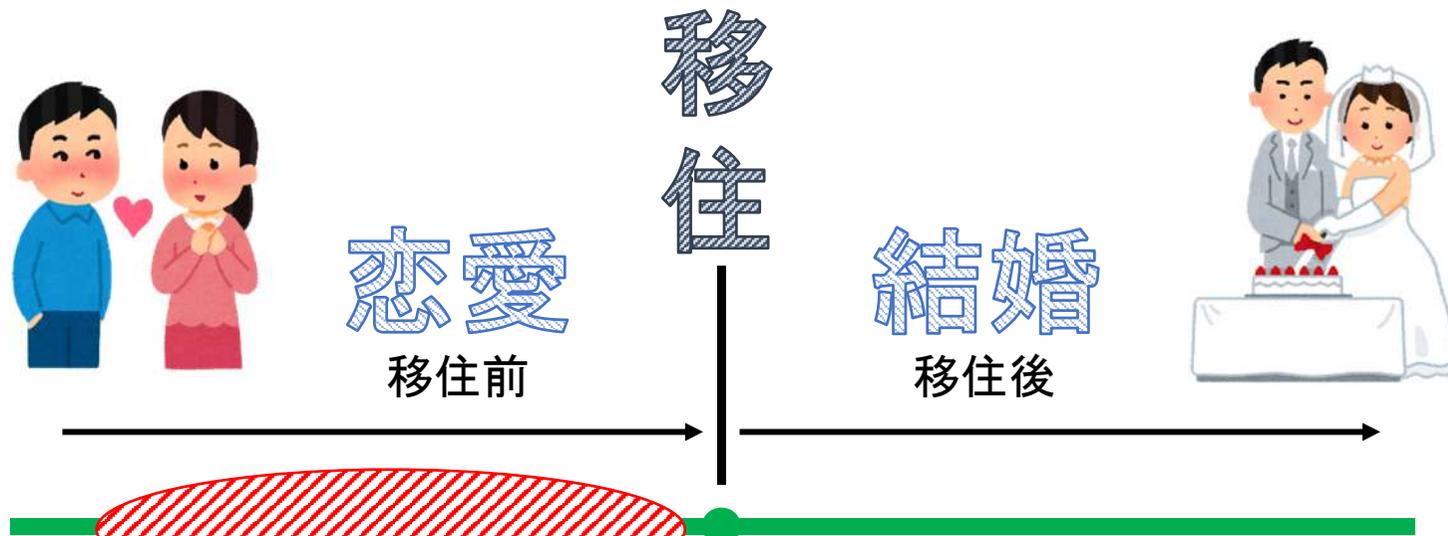


# 接地面を増やす 「移住特区」と「OKATTE」



# その結果、人が人を呼ぶ





お互いを知る



関係人口の創出

【事例紹介】

## 関係人口創出に向けた飯田市、南信州観光公社、Airbnb Japanによる包括連携

(農家民泊の活性化、空き家の活用を通じて、関係人口の創出と地域課題の解決に寄与するまちづくりを推進していく)



# 関係人口化に向けた地域課題解決型イベント 「空き家DIY」

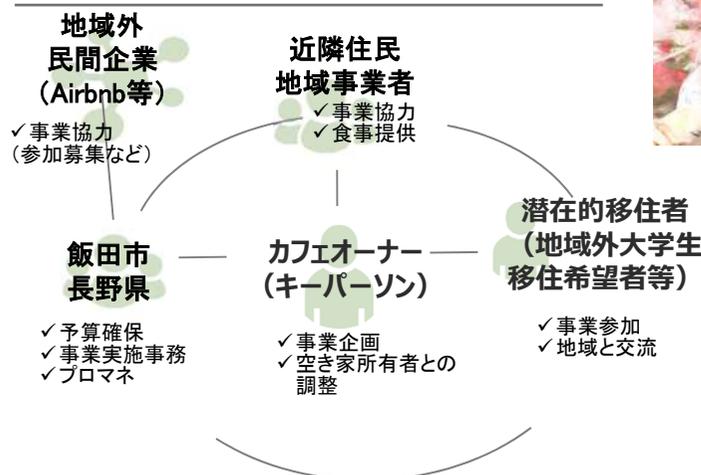
## 取組の詳細

### 【空き家DIYイベント】を通じて関係人口化

#### 取組概要

- 移住者や民間企業と連携しながら、関係人口づくりの事業を実施。
- 事業のきっかけは、引退し廃業した歯科医院の建物が空き家で物置となっており、地域のカフェオーナーが活用の相談を受ける。片付けやDIYにより再生を目指し、長野県の「共創人口構築事業」を活用して事業化。
- 地域外の大学生等、若者世代が参加し、地域住民と連携して空き家再生に取り組む。包括協定を結ぶAirbnb Japan(株)が参加者の募集に協力するなど民間企業のかも活用して実施。

#### 実施体制・役割



#### 取組成果

- 地域外の若者が地域住民などと交流する中で、地域とつながりを持ち関係人口化が進む。
- 再生された空き家も今後活用される見込みで、空き家活用も進む。
- イベントに参加した移住希望者は、地域とのつながりをつくって、地域の中で使っていない空き家を紹介され、翌年移住した。
- 参加した大学生グループが定期的に通い、地域の祭りやイベントの運営補助や出店等をする動きが生まれた。
- 新たに、大学生による空き家活用プロジェクトが立ち上がり、現在片付けと改修工事が進んでいる。





# 地域活性化ワークショップ 「Z世代会議」、アンバサダー育成

## 取組の詳細

### 地域活性化ワークショップ（Z世代会議）及びアンバサダー育成セミナーによるファン化

#### 取組概要

・都市部の若者世代(Z世代)が、地域課題の解決に熱意を持って取組んでいる地域のキーパーソンと出会い、とともに汗をかき、自身の役割や居場所を見つけられる機会を提供することで、Z世代のファン化を後押しし、SNSやコンテンツ共有サイト等を通じて、「ファンが新たなファンをつくる」ためのファンベースを中心とした情報発信力を強化する。

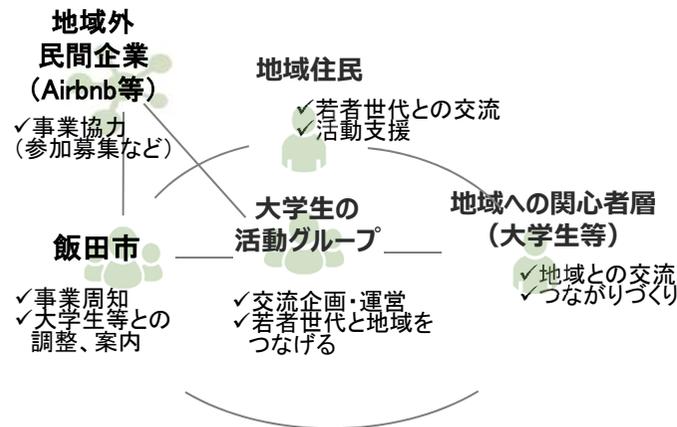
・若者世代(Z世代)視点で見つけた魅力を出し合い、それらを発信するためのアイデアを考える「Z世代会議」を実施。

・Z世代会議を通じて定期的に通う若者が、自分の言葉で、積極的かつ強力に当地域の情報を発信していけるように、YouTubeやInstagram等の効果的な活用方法を学ぶ「地域アンバサダー講座」を実施。

#### 取組成果

- ・ 地域とつながりたい若者世代が地域と交流できる場が生まれ、関係人口化が進んだ。
- ・ 若者世代が交流の場を通じて地域コミュニティとつながることで、地域への定着(リピート訪問、移住等)の気運が高まった。
- ・ コロナ禍で失われていた「人とのつながり」を求める若者の入り口となり、定期的に飯田を訪れる若者のリピート訪問が増加。こうしたリピーターが飯田のファンとして、自分の言葉で同年代に情報発信を行うアンバサダーの育成にもつながり、「人が人を呼ぶ循環」につながっていった。
- ・ 「note」や「Instagram」を活用して、若者世代が体験したことや感じたこと、魅力等を発信する動きが加速した。

#### 実施体制・役割





町からウクライナ  
高森中の有志が

天龍峡  
「Z世代」視点の魅力とは  
郷土若者が発信アイデア交流会

郷土若者の自覚と責任

電話番号案内  
0266-25 0007  
SHANAN

天龍峡  
ご長寿に感謝と  
お慶びを申し上げます



# Airbnb、南信州観光公社と連携した「農家民泊」の推進

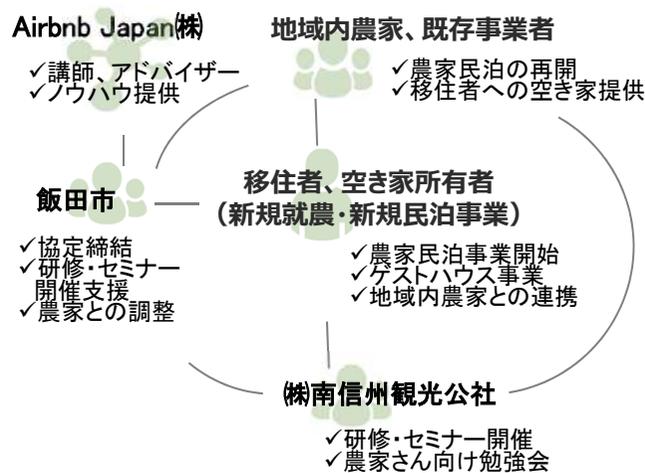
## 取組の詳細

### 農家民泊推進のための研修、伴走支援による事業化

#### 取組概要

- ・ (株)南信州観光公社、Airbnb Japan (株)と包括連携協定を締結。農泊、空き家等の活用等を通じて、関係人口を創出し、持続可能で魅力的なまちづくりに取り組む。
- ・ 体験教育旅行以外にも、インバウンド含む一般観光客など個人旅行への対応支援として、Airbnbホストへの勉強会や研修会を開催。
- ・ 若い移住者がAirbnbサービスなどを活用しながら積極的にゲストハウス経営や農泊を展開。こうした若い移住者の取組を見て、地域農家もサービスを活用し、一般観光客向けの取組を進める。

#### 実施体制・役割



#### 取組成果

- ・ 高齢化等により受入農家が減少する中で、若い移住者が新たな農家民泊の受け皿となった。
- ・ 農家民泊の実施にあたり、地域農家が宿泊場所となる空き家を新規事業者(移住者等)に提供したり、空き家の改修支援をしたりするなど、移住者と地域農家の協業による事業展開も生まれている。
- ・ 移住者等が起点となり、飲食店やアクティビティ提供を行う地域事業者と連携し、地域を巡る体験型観光のパッケージづくりも進んでいる。
- ・ 体験教育旅行における農家民泊の受入を機に、新規就農した若手移住者も増えている。
- ・ 研修会に参加された農家民泊及びゲストハウス等の宿泊事業者の中で、相互に情報交換や交流を行うコミュニティが生まれ、互いの宿泊施設を紹介し合う動きにつながっている。



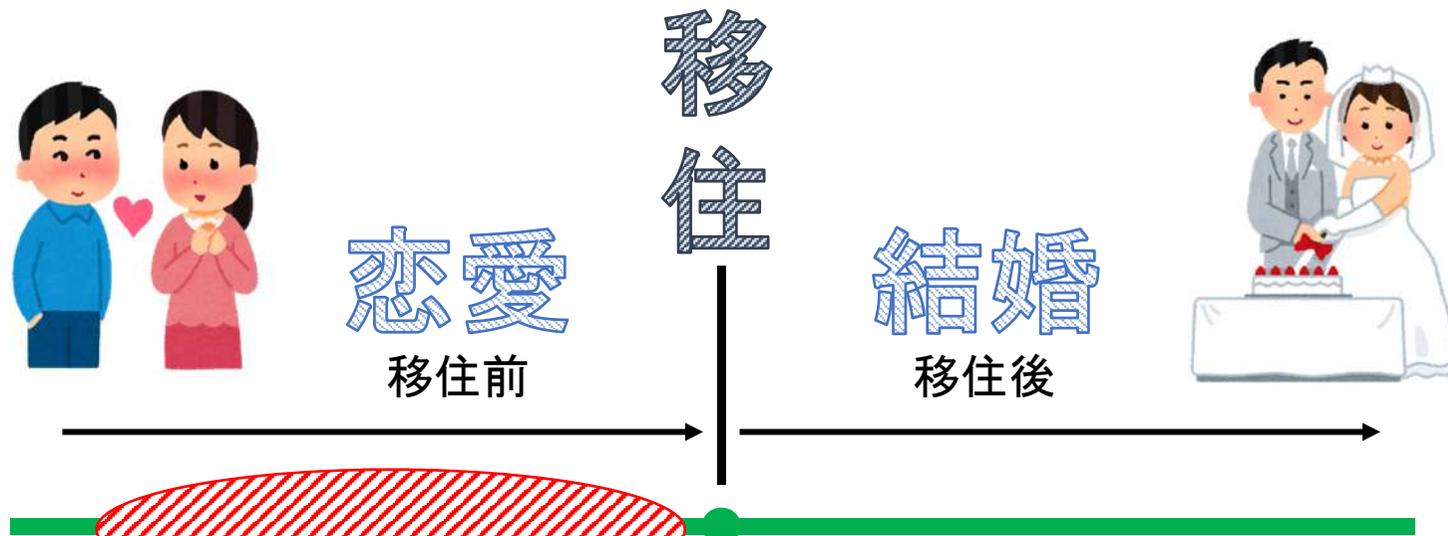
- ・飯田に来る度に居場所がある、帰ってきたという雰囲気や肯定感を感じる…
- ・飯田に来てから、楽しく幸せな人間関係が築けているという実感がある…
- ・ここに居ると、自分のかけがえのなさとか、認められているという安心感がある…

※空き家DIYイベント参加者の感想

「人」に興味を持つ  
想像する気持ち



自分を否定するのではなく、  
他者を肯定することによる感化



関係人口の創出



スクール事業

人・取組  
への興味

新たな観点の  
発見

関心テーマへ  
の訴求

地域やコミュニ  
ティへの愛着の  
深化

入口となるプロ  
グラムへの参加



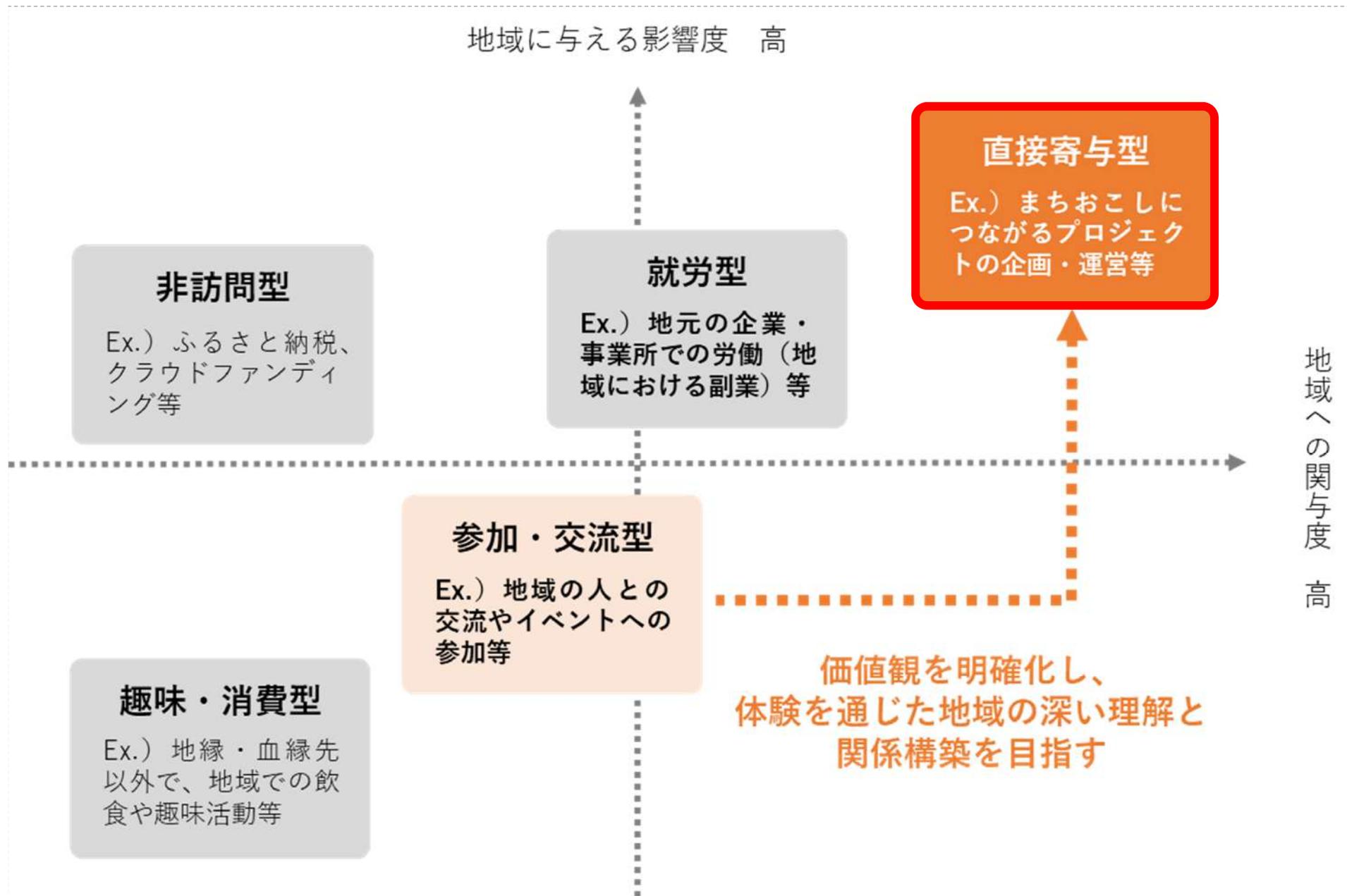
来訪頻度  
向上

参加交流型  
への変化

さらなる行動

共感・当事者  
意識の芽生え

直接寄与型への変化



# エアビースクール

---

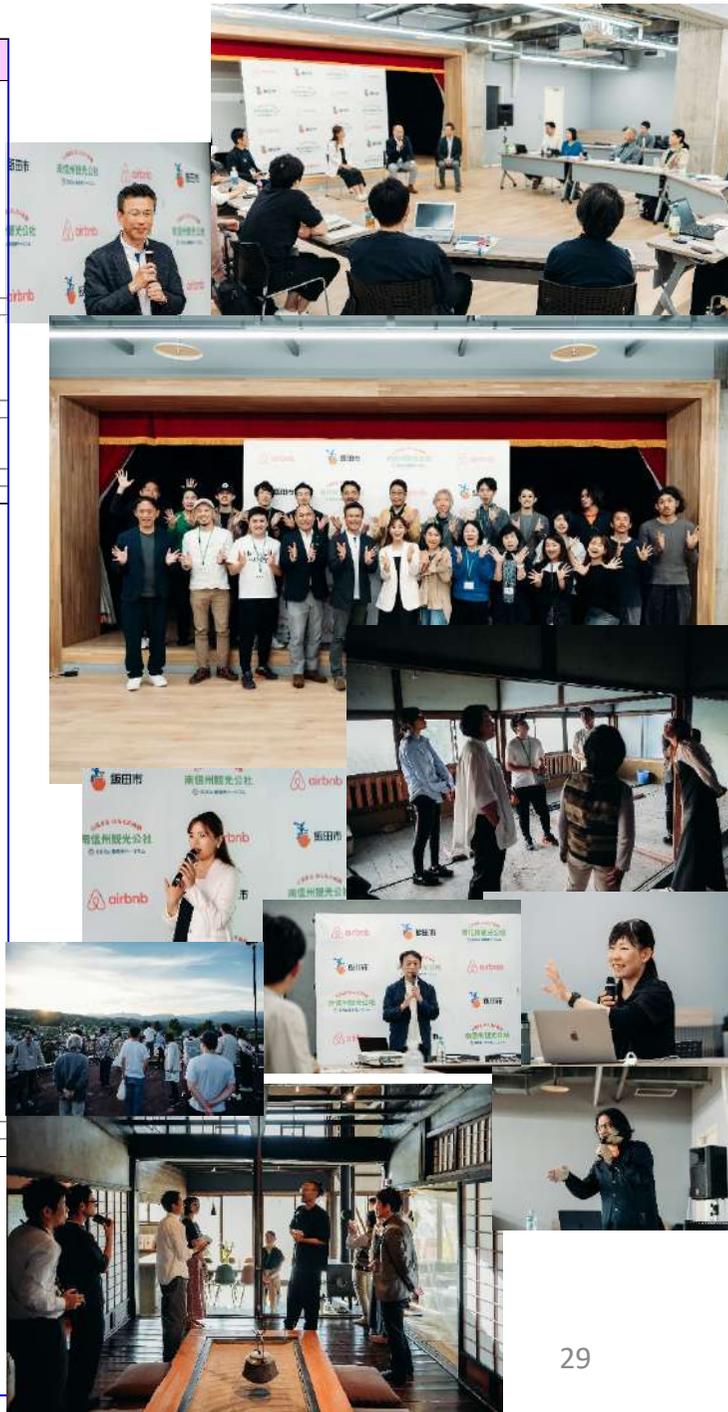
## エアビースクール開校の背景

- ◎観光と移住との垣根が曖昧になってきており、「関係人口の概念を媒介に、それらを一連の流れとして捉える事」が重要。
- ◎「人と人がつながるホームシェアリング」はこれらのトレンドとの相性がよく、地域の窓口となるホームシェアリングが増える事で、地域の主体的な取り組みを引き出す事ができる。
- ◎「あの人に会いに行く」、「地域の日常に触れる」、「家族の一員として過ごす」というゲストのニーズが高まっており、世界的な潮流となっている。加えて、「サスティナブルツーリズム」や「レスポンシブルツーリズム」を重要視しながら、「飯田市の価値に共感する人に来てもらえる受け入れ体制」を構築する事が、「DISCOVER ANOTHER HOME」を軸に捉えた飯田市の観光及び持続可能な成長戦略にとって重要。

## エアビースクール開校の目的

- ◎世界最大級の旅行コミュニティプラットフォームであるAirbnbとのパートナーシップを活用し、「Airbnbのグローバルの知見」と取り組みエリアである「天龍峡でのフィールドワーク」を組み合わせた「合宿型のエアビースクール」を開校し、地域交流や地域資源を活用したビジネスができる人材育成を目的とする。
- ◎参加者は近隣の市町村ならびに他府県からの参加も可とし、「飯田市をハブとした情報の集積地」・「人材交流の拠点」として、飯田市のブランディングを更に高めると共に、「上質なローカル」を実装する事を目的とする。
- ◎講師陣にはAirbnbからだけでなく、飯田市内で活躍しているプレイヤーも招聘し、プレイヤー自らが教える事により、知見を言語化し、地域内でのノウハウの蓄積や成功事例の横展開を図り、持続可能な体制で進めていく事を目的とする。

日程	日			内容	講師・進行	場所
	日にち	開始	終了			
1日目 5/17(金)	13:00	13:30	30	受付(ムトスぶらざ3階)		ムトスぶらざ3階 大会議室C
	13:30	14:00	30	オリエンテーション あいさつ、自己紹介、日程の説明	飯田市民協働環境部長 橋本 飯田市結いターン移住定住推進課係長 湯澤	
	14:00	14:10	10	休憩、講義受講準備		
	14:10	15:00	50	Airbnbの特徴、地域活性化の進め方	Airbnb Japan株式会社 事業開発部長 谷口紀泰 氏	
	15:00	15:10	10	休憩		
	15:10	16:00	50	空き家の活用と空き家を増やさないための実践事例	合同会社nom 代表社員 折山尚美 氏	
	16:00	16:30	30	移動		
	16:30	18:30	120	視察(①16:30燕と土と ⇒②17:15宮のまえ ⇒③18:00テリリュウ堂)	燕と土と オーナー 中島綾平 氏 民宿宮のまえ 女将 柏木ちづ子 氏 合同会社nom 代表社員 折山尚美 氏	
	18:30	19:00	30	移動		
	19:00	21:00	120	参加者交流会(夕食)、宿泊施設見学	株式会社太陽農場 代表 殿倉由起子 氏	
21:00	21:30	30	移動(市内へ) (入浴・就寝)		各宿泊施設	
2日目 5/18(土)		9:30		集合		ムトスぶらざ2階 多目的ホール
	10:00	10:30	30	持続可能で魅力的なまちづくりの実践について	飯田市長 佐藤 健 氏	
	10:30	11:00	30	共助のまちづくりについて シェアリングエコノミー協会の取組紹介	一般社団法人シェアリングエコノミー協会 代表理事 石山アンジュ 氏	
	11:00	11:10	10	休憩		
	11:10	12:10	60	座談会【地域の暮らしそのものが目的地に~「もてなす」と「もてなされる」の間にある価値とは~】	飯田市長 佐藤 健 氏 一般社団法人シェアリングエコノミー協会 代表理事 石山アンジュ 氏 Airbnb Japan株式会社 代表取締役 田邊泰之 氏	
	12:10	13:30	80	ランチ		
	13:30	14:30	60	農家民泊「ほんもの体験」の価値と 農泊事業者の個人旅行への対応支援	株式会社南信州観光公社 代表取締役 高橋 充 氏	
	14:30	15:00	30	農家が営むゲストハウスの挑戦	株式会社太陽農場 代表 殿倉由起子 氏	
	15:00	15:30	30	ホームシェアリングの運営	Yamairo guesthouse オーナー 高橋瑞季 氏	
	15:30	15:45	15	休憩		
15:45	16:30	45	空き家を活用した実践例の紹介	ADDReC株式会社 代表取締役 福島大我 氏		
16:30	17:30	60	経営戦略、ビジネスプランの作り方	社会起業家 田辺 大 氏		
17:30	18:00	30	課題説明、終了			
18:30	20:30	120	食事会(希望者のみ)			
20:30	21:00	30	解散 (入浴・就寝)		各宿泊施設	
3日目 5/19(日)		8:00		集合		ムトスぶらざ2階 多目的ホール
	8:30	10:30	120	グループワーク 自己分析について		
	10:30	10:45		休憩		
	10:45	11:15	30	グループワーク 振り返り、発表準備		
	11:15	12:30	75	グループワーク発表		
12:30	13:00	30	閉講式、アンケート記入			



Wow, look so great!  
いちばんホットな現場を視察

ここ飯田市にも、たくさんの試行錯誤と大きな覚悟を持って  
新たな一歩を踏み出して欲しい先輩ホストたちがいた。  
その誰もが自分たちらしく、個性的で、実際に前を向いていた。  
有意実行のその場所は、みんなの憧れそのものだ。



エアビスクール Vol.01 in 飯田市  
空き家活用実践講座

長野県飯田市を起点に、ホームシェアリングに関する知見の共有と  
現場でのフィールドワークを組み合わせて、遊休資産を活用するビジネスの可能性と  
自分の内面をも発展するエアビスクールが、去る5月に三日間をかけて開校された。  
現代を生きる誰にも共通する課題を前に、参加者が得たものはきっとかけがえないものに違いない。



民宿宮のまえ

縁起前まで、南信州観光公社が取り回す旅業旅行先の中核の集客拠点として運営してきたが、30歳前後の中で個人旅行の受け入れも行うようになった。この家の名前はなんといっても古賀、私たちが子どもと家族、ローカルに暮らす人々との心を通わせる結果を味わいたい



燕ど土と



Cider Bar & More



テニリユウ堂



上、飯田市長・佐藤氏(左)、Airbnb Japan代表・田邊氏(中)、シェアリングエコノミー協会代表・丸山氏(右)3名による開校式では、「もてます」と「もてられさず」の間にある自分の居かきや生活の現場について話を交わされました。下左、その場にいんだ講師を、講師陣、スタッフ全員で記念撮影。下右、初日の夜は体験も兼ねてホームページで紹介しているCider Bar & Moreで参加者交流会。多くのつながりも生まれましたように

という目撃見もある。  
プログラムは、初日のオリエンテーション、イントロの講座に引き続き、市の農業民泊やコミュニティカフェの現場を視察。夜はりんご農園施設にて、自家栽培りんごを使ったジュースやシードル、地元産材を用いた菓子の数々を囲みながら参加者同士の交流が行われた。そして二日目は、各分野の専門家やエアビー社員、先輩ホストを講師に迎えた講座と座談会。三日目は、自身の気持ちの変化や講座の内実、参加者同士のコミュニケーションを振り返り、そのプロセスを行い、幕を閉じた。一日泊専業のためのビジネスプランを検討しておきたいではなく、参加者同士、また講師陣とも積極的につながり、今後のために密接な深い関係を築いていけたらというの、スクールの通じてのひとりの大きな願いです。飯田市観光タイン部主任佐藤謙二・津澤氏(氏)  
年内のスクールは、熊鷹、晩秋と続いていく。ホームシェアリングに興味を持ちながら、どんな立場の方もぜひ参加してみたい。

2024年5月午ばの三日間、第一回目の「エアビスクール」が長野県飯田市で開催された。執筆すべきは実施体制として今回、飯田市行政が主催している点だろう。本誌にエアビーの文字が記されているのは、あくまで「インフュージョン型」の「コミュニティまつり」を、という意志の表れ。背景には、2021年に飯田市、地域RMOである南信州観光公社、そしてエアビー3者で結んだ、空き家活用と農家民泊の個人向け対応、そして人とのつながりを目的とした施設連携推進の存在がある。今回の講座もテーマを空き家活用の実践として、現役ホストやプレイヤー、各専門家からの知見の共有とフィールドワークを組み合わせた多角的な内容となっていた。また参加者は、ホームシェアリングビジネスの確立を目指し希望者や物件オーナーはもともと、行政の空き家担当から地方創生支援に関わったり興味を持っている個人ならびに業界人まで、非常に幅が広がった。市としては、域外からも多様な立場の参加者を募ることで、情報と人材交流のハブを目指していきたい

人材育成や人材のマッチング支援、  
スクール関連事業、研修事業等  
をされている企業の皆さま、  
また、**地方ビジネス、副業（複業）**の  
導入を検討されている企業・個人の皆さま、  
是非ともお声がけください。